

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

中国バブルは崩壊した！？ (独断と偏見)

世界経済を牽引する代表国である中国がバブル経済状態にあるかどうかは、かねてより議論されていましたが、先月日経新聞に出た記事により、私は中国バブルは既に破裂状態にあると確信しました。その記事は、海外に上場した中国企業に粉飾疑惑が相次ぎ、当該企業の株価が暴落しているという内容でした。私は「はーん、やはりね」とその記事に頷きました。

東京証券取引所にアジア・メディアという中国企業が上場したのは07年3月のことでした。中国企業上場第1号として注目されましたが、たった1年で上場廃止に追い込まれました。その理由は、同社のトップが上場で集めた金をそっくり私的に流用していたことが判明したからです。そんな会社を上場させた東証も問題ですが、こうした問題は日本だけではなくたのです。トロント(カナダ)、ナスダック(米国)には150社を上回る中国企業が上場(殆ど裏口)していますが、その会計情報に不信が拡大している模様です。推測でものを云うのはなんですが、多分、驚くべき粉飾が横行しているのではないのでしょうか。

今や世界の主要株式指数として毎日その動きが報じられていますので、皆さんも上海総合株価指数の動きはご覧になっていると思います。私も、自分のPC内に作成した主要な市場指標として上海総合株価指数を日々記入しています。調べたら、記入を始めたのは今から4年前の07年6月でした。もはや無視できない市場として意識したのだと思いますが、その最初に記入した指数は4,072ポイントでした。恐るべき勢いで上昇していたのです。それから現在に至るまでの指数推移は下表の通りです(日経平均及びナスダックと並べてみます)。

	上海総合	日経平均	ナスダック
07/06 末	3,836	18,138	2,608
07/12 末	5,216	15,307	2,674
08/12 末	1,820	8,859	1,577
09/12 末	3,277	10,546	2,269
10/12 末	2,808	10,228	2,652
11/06 末	2,810	9,816	2,834
4年間 ^{ピーク} - ヲ	6,092	18,261	2,873

実は、上海総合株価指数がピークを付けたのは、4年前の07年10月で上表の通り6,092ポイントでした。今年6月末の指数は当時の半分以上となっています。どの国もリーマンショックで大打撃を受けていますが、上海の株価指数は非常に気になる動きをしています。既に株価は4年前に天井を付けている可能性が大きいのです。

日本のことを思い出して下さい。日経平均がピークを付けたのは89年12月でした。90年1月から株価は下げ始め、バブル経済崩壊が鮮明となった95年に至るまで、証券・銀行等金融業界を中心に驚くべき不祥事が次々と明るみに出ました。それは政界・官界も巻き込んだもので、今でも色々な事件が思い出せるほどです。勿論、日本と中国を比べるのは可笑しいという見方もあるかもしれませんが、バブルを起こす人間心理と云うものは共通項があるように見えます。中国で起きている様々な事件は、上場企業の相次ぐ粉飾と相俟って、バブル崩壊時に見られる現象ではないか、それが株価指数に反映しているのではないか、というのが私の推論です。

であるとして、ではどうしたら良いのでしょうか。それは世界のバブル崩壊後の経済事象を見れば自ずから明らかだと思います。一番判りやすいのは株式とか不動産等です。株式は既にかかなり下落していますが、不動産は未だ始まったばかりだと思われれます。政官界、企業の不祥事露出もこれからでしょうし、未だ未だ驚くべきことが起こる筈です。

であれば、中国株式投信や不動産投資は止めた方がいいという結論になるし、中国進出、中国企業との取引も慎重に行った方がいいということになります。勿論、中国経済成長の恩恵を受けている国内経済もかなりの痛手を受けるでしょう。

これはあくまで私の見方です。勝手な推測に過ぎません。私のような市場を見ているものは、自分の推測を云いふらしたくなるのです。皆さんは皆さんの見方・考え方で行動して欲しいと思います。

私達は、目の前で東京バブルが形成され崩壊してく姿を見ました。オランダのチューリップバブル、イギリスの南海シーバブル、そして世界恐慌の発端となったニューヨークバブル。世界経済は正にバブルの歴史ですが、それが短期間にしかも大規模に繰り返されるのが、高度資本主義にある現代の宿命です。さて、どうなるのでしょうか。